



『港まちで再会する映像プロジェクト』プログラム4 映像作品の撮影の様子

「MUSIC / ART / MINATOMACHI 港まちで生まれる音楽とアート 2021-2022」 ドキュメント展を開催

名古屋港エリアでは、音楽とアートのフェスティバル「アッセンブリッジ・ナゴヤ」を中心に、コンサート、ライブ、パフォーマンス、プロジェクト、展覧会など、さまざまなプログラムによって、港まちの風景に音楽とアートを届けてきました。

今年度からは「アーティスト・イン・レジデンス (Artist in Residence) =AIR」を中心とした、新たな活動が始まりました。AIR とは、アーティストがまちに滞在し、制作や活動を行う取り組みです。名古屋港エリアの歩みを遡ると、かつて港湾に存在した空き倉庫を活用したスタジオ事業などが実施されていた経緯もあります。そうした礎のもと、港まちを舞台にアーティストや表現者がまちに滞在し制作や活動を行うことで、まちや人びとが芸術と出会いつながりながら、新たな文化が育まれていくことを目指しています。今回は、2021-2022年に活動したプログラムをドキュメント形式で紹介する展覧会を開催します。

展覧会概要

「MUSIC / ART / MINATOMACHI 港まちで生まれる音楽とアート 2021-2022」

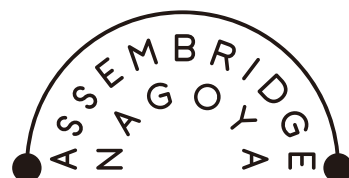
日時 2022年1月25日（火）-3月12日（土）
11:00-19:00（入場は閉館30分前まで）

* イベント等により、一部の展示をご覧いただけない時間が生じる場合があります。
最新情報はウェブサイト、SNSでお知らせします。

会場 港まちポットラックビル 2F、スーパーギャラリー

休場日 日曜・月曜・祝日

* 新型コロナウイルス感染症の状況等により、実施内容等が変更となる場合があります。
最新情報はウェブサイト、SNSにてお知らせします。



展覧会プログラム紹介

SOUND BRIDGE

『港まちで再会する映像プロジェクト』プログラム 4 映像作品上映（初公開）

アーティストたちが「港まち」と再会することをコンセプトに、映像を制作する『港まちで再会する映像プロジェクト』。コロナ禍の2020年には3本の作品を制作しました。今年度はその第四弾として、自身も映像の監督を行うミュージシャン・井手健介による映像を制作。演奏には井手健介のほか、井手健介を中心としたバンド「井手健介と母船」のメンバーが出演し、録音はミュージシャン・作曲家でもある宇波拓が務めました。港まちのさまざまなロケーションを舞台に、独特の存在感とミステリアスさを含んだ映像作品となっています。

アーティスト | **井手健介** (Vo, Gt)、**墓場戯太郎** (Ba, Cho)、**清岡秀哉** (Gt)、**北山ゆう子** (Dr, Cho) ▶プロフィール (P8)

撮影・編集 | 富田了平 録音 | 宇波拓 照明 | 池田真子

*2020年制作の3作品はアッセンブリッジ・ナゴヤのYoutubeページよりご覧いただけます。



撮影の様子

ART

「港まちオンラインAIRプログラム」成果発表

今年度から始まった、アーティスト・イン・レジデンスの取り組みとして、海外アーティストを招へいし、港まちでの滞在・活動をサポートし交流するプログラムがスタートしました。

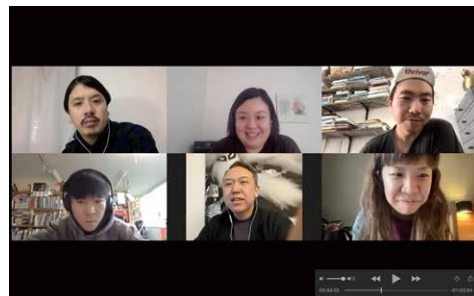
今年度はコロナ禍の渡航制限により、実際に来港することは叶いませんでしたが、ペナン島（マレーシア）を拠点にアーティスト/キュレーターとして活動するフー・ファンチョンを招き、名古屋を拠点に活動するアーティスト・山下拓也とともにオンラインでのリサーチプロジェクトを実施。

オンラインやSNSでのやりとりを通じて、アーティスト2人がペナンと名古屋、それぞれの都市でリサーチを行う交換プロジェクトの成果を発表します。

アーティスト | **フー・ファンチョン**、**山下拓也** ▶プロフィール (P7)



リサーチの様子



展覧会プログラム紹介

MUSIC

「レジデンス・アンサンブル プロジェクト」記録映像上映（初公開）

東海エリアを中心に活躍する演奏家が、港まちの人々とともに、顔を合わせたり対話を繰り返し、一緒になってコンサートや、音のある風景を創り出すプロジェクト。これまでに 4 組が定期的にまちに滞在し、児童デイサービスや老人サロン、イベントなどで演奏を続けてきました。今回はアンサンブル・ヴィオレによる活動の記録映像を上映します。

演奏家 **アンサンブル・ヴィオレ**（木管五重奏）
 細川杏子（F）、河野真子（Cl）、田中梨彩（Ob）、山崎瑞季（Hr）、
 巢立ひかり（Fg） ▶プロフィール（P6）



SOUND BRIDGE

『GOFISH & 浮 | 港まちの屋上ライブ』ダイジェスト映像上映（初公開）

昨年 11 月に開催した「ポットラックバザール presents 港まちブロックパーティーミニ meets みなと土曜日」にて、GOFISH（テライショウタ）と浮（米山ミサ）による屋上ライブを開催。そのダイジェスト映像を上映します。

港まちと関わりの深いGOFISHと、港まちに初登場の浮。これまで共演や客演なども含めて親交ある2人のシンガーソングライターの、それぞれのパフォーマンスはもちろん、2020年にテライが港まちの滞在制作プロジェクトで制作した楽曲や、この日限りのコラボレーションなど、盛りだくさんのライブから一部始終をお届けします。

出演 **GOFISH**、**浮** ▶プロフィール（P8）
 撮影・編集 | 富田了平



展覧会期間中のイベント

CONCERT

「レジデンス・アンサンブル プロジェクト」演奏会

「ポットラックバザール presents 港まちブロックパーティーミニ meets みなと土曜日」で、レジデンス・アンサンブル プロジェクトに参加中の岡林和歌 (Cl)、美郷 (Perc)、近藤幹夫 (Marimba) による演奏会を開催します。

日にち | 2022年2月12日 (土)

* 公演の詳細は後日ウェブサイトにて発表いたします。

演奏家 | 岡林和歌 (Cl)、美郷 (Perc)、近藤幹夫 (Marimba)

▶ プロフィール (P6)



EVENT

「アッセンブリッジ・スタジオ」オープンスタジオ

これまでフェスティバルの会場に使用していた旧・名古屋税関港寮をアーティスト、演奏者、デザイナーなどをはじめとした表現者を対象にスタジオとして提供する事業。現在は公募によって選ばれた、小林真依、福田良亮、山口諒の3名のアーティストがスタジオを使用し、広いスペースを活用した作品制作や港まちの人や環境と関わる制作プロジェクトなど活動を広げています。

オープンスタジオではアーティストの活動の様子や制作の現場を公開します。

日時 | 2022年2月5日 (土) - 3月12日 (土) 毎週土曜日のみ 14:00-19:00

* スタジオ公開日: 【2月】5日、12日、19日、26日 【3月】5日、12日

会場 | 旧・名古屋税関港寮

アーティスト | 小林真依、福田良亮、山口諒 ▶ プロフィール (P7)



PROJECT

港まちの社交場《NUCO》(ニューシーオー)

アッセンブリッジ・ナゴヤが始まった2016年に、約20年間空き家だった元・寿司屋が、アーティストユニットLPACK.のプロジェクトとして、建築家や大工、「空き家再生プロジェクト」参加者らとともに改修し、まちの社交場《UCO》(ユーシーオー)を開きました。2018年にUCO一帯の長屋群が取り壊しとなりましたが、その後、向かいの空き家を借り受け、2019年に新たな活動の拠点《NUCO》を始動。ガラス扉や内部のカウンターなど、UCOから部材を移設し、UCOとNUCOの両空間が持つ機能が編み込まれるように設計することで、NUCOがかつて編み物教室だった歴史を継承しています。現在は年間を通して、有志が集まったメンバーを中心にカフェを運営しながら、まちの社交場として活動しています。

日時 | 木曜、金曜、土曜 OPEN 12:00-18:00 (L.O.17:30)

* 第2・第4金曜日 12:00-20:00 (L.O.19:30)

* 新型コロナウイルスの感染状況によっては、変更休業の可能性あります。

場所 | NUCO (名古屋港区名港1-18-4)



Instagram :
@nuco.nagoya



展覧会期間中のイベント

EVENT

「ポットラックバザール presents 港まちブロックパーティーミニ meets みなと土曜日」第2回目 開催決定

これまで多様なアーティストを招いて賑わいを見せてきた「港まちブロックパーティー」。今年度は港まちで月に一度開催されるまち中マーケット「みなと土曜日」とともに、「港まちブロックパーティーミニ meets みなと土曜日」として展開します。また感染症の流行が続く状況を踏まえ、今年度は規模を縮小して、2度に分けて実施します。

ブロックパーティーとは、ブロック（街区）の住民が集まって行う地域のお祝いや祭りを意味します。昔から港まちは世界中の人びとやものが行き交いしてきた場所であり、港まちブロックパーティーでも、音楽やアート、港まちの文化が集まり、世代を超えてみんなで楽しむイベントとして行います。



日時|2022年2月12日(土) 10:00-15:00

会場|築地口商店街界隈、江川線沿い歩道エリア

* 詳細は後日ウェブサイトにて発表いたします。



LIVE

井手健介ライブ

『港まちで再会する映像プロジェクト』プログラム 4 に出演の井手健介によるソロライブを展示会場にて開催します。映像展示とあわせてお楽しみください。

日にち|2022年3月5日(土)

会場|港まちポットラックビル 2F

出演|井手健介 ▶プロフィール (P8)

* 公演の詳細は後日ウェブサイトにて発表いたします。



参加アーティスト プロフィール

MUSIC プロフィール

アンサンブル・ヴィオレ Ensemble Violet

2017年結成。愛知県立芸術大学に所縁のあるメンバーで構成された木管五重奏団。全国各地から集まったわたしたちが愛知から全国へ。“小さな幸せ”を音楽で届けたい。そんな気持ちを「すみれー Violet」の花言葉に込めて。結成から愛知を中心に東海地区で様々な演奏活動を行い、2018年4月に初のリサイタルを開催し、同年9月に第2回リサイタルを開催。2018年11月、フランス・パリにて開催された第92回レオポルド・ベラン国際コンクール室内楽部門にて2等賞を受賞。またフランス・バドカレ県にある聖ヴァレリー教会にて演奏会を行い、好評を博す。2020年2月、公益社団法人のべおか文化事業団より招聘をうけ、宮崎延岡市延岡総合文化センターにて「音楽の散歩道 vol.30 アンサンブル・ヴィオレ リサイタル」に出演。

他にも愛知県内各所小学校の音楽教育演奏訪問や、名古屋栄のオアシス 21にて開催される「なごやウィメンズ・クラシック」、ノリタケの森での音楽会への出演、地域貢献演奏、愛知県主催・障がいを持つ方のためのアート展「あいちアール・ブリュット」における解説付演奏会や、名古屋市中川運河で運行される水上バス「クルーズ名古屋」において水上コンサートを行なうなど、活動の場を広げている。

室内楽を村田四郎、青谷良明、原田綾子、橋本岳人、根本雄伯の各氏に師事。



岡林和歌 Waka Okabayashi

クラリネット

愛知県立芸術大学音楽学部器楽科卒業及び同大学院修了。

よんでん文化振興財団奨学生。

1999年中川良平の東京パッパバンドのメンバーとして仙台、東京公演およびレコーディングに参加。オーディションに合格し、2001年アジアユースオーケストラアジアツアー、2002年にはパシフィックミュージックフェスティバル(PMF)オーケストラに参加。2003年より2012年まで一般社団法人愛知室内オーケストラにてクラリネット奏者を務める。下八川圭介記念第27回高知音楽コンクールにおいて高知音楽優良賞受賞。

現在、クラシックを中心に多種多様な音楽ジャンルによる自由な演奏活動を展開。即興や作曲、アーティストとのコラボレーション等も積極的に手掛け、レコーディングにも多数参加する傍ら、後進の指導にも積極的に取り組んでいる。

2021年高知県で開催した『酒井敦美光の切り絵展』へ楽曲提供、同時に絵本付きCDをリリース。



美郷 Misato

パーカッション

愛知県出身。13歳より打楽器をはじめ。名古屋音楽大学器楽科打楽器専攻卒業。在学中特待生。名古屋音楽大学大学院音楽研究学科修了。Classic, Latin, Jazz, Pops, 演劇や現代芸術など幅広いジャンルで活躍し、国内外様々な演奏会に出演。数多くの演奏家と共演している。2013年キューバへ音楽留学。繊細さと大胆さを合わせ持つプレイヤーとして様々な場所で活動中。

『BIRTH』『voir』『スカルサクラ』『MAR』『にじいろ音楽隊』『トリオラナンキュラス』『クピパトリオ』等のメンバー。劇団四季ディズニーミュージカル『ライオンキング』名古屋公演にてパーカッション奏者として演奏中。自身が代表を務める Music Studio『CORON』にて後進の指導にも積極的に取り組んでいる。

1stアルバム「リズム☆パラダイス」発売中。



近藤幹夫 Mikio Kondo

マリンバ

名古屋芸術大学音楽学部器楽科打楽器専攻卒業、同大学院音楽研究科修士課程修了。アメリカ・ボストン音楽院 Zeltsman Marimba Festival 修了。第32回国際芸術連盟新人オーディション入賞、同連盟新人推薦コンサートに出演。これまでにセントラル愛知交響楽団コンチェルトシリーズ No.37 等に出演。2019年刈谷市総合文化センター管弦楽団と作曲：板倉ひろみ氏「いのりのうた いのちのうた ~ マリンバとオーケストラのための ~」を初演する。現在名古屋音楽学校マリンバ講師、中部打楽器協会理事、愛知国際病院非常勤講師、刈谷市総合文化センター・レジデンスアーティストを勤める。クジラのCD「ちいさなこどもと親のためのうた・おうちうた vol.1」を販売中。



ART プロフィール

フー・ファンチョン Hoo Fan Chon

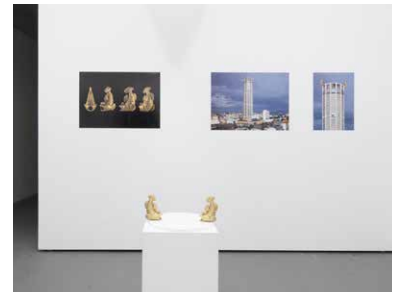
アーティスト

1982年マレーシア・セランゴール州生まれ、ペナン州ジョージタウン在住。

文化のおよび社会的構成要素としての経験と、ある文化から別の文化に移行するときに、社会の価値観がどのように変動するかを探求している。

アートコレクティブ「Run Amok Gallery」(2012-17)の共同創設者でありメンバー。国際交流基金アジアセンターのキュレーターワークショップ(2015-17)の参加者の1人に選ばれたほか、台湾のNo Man's Land Residency Project - Nusantara Archive(2017-18)に参加。

近年の主な個展に「BiroKaji Visual George Town」(Narrow Marrow、マレーシア・ペナン、2019年)、グループ展に第3回マカッサルビエンナーレ(Gedung Kesenian、インドネシア・マカッサル、2019年)、共同キュレーションに、「Bayangnyaitu Timbul Tenggelam- マレーシアの写真文化」展(イルハム・ギャラリー、マレーシア・クアラルンプール、2019年)など。

《コムタのムチホコ 名古屋市からペナン州ジョージタウンへの外交贈呈品(案)》2021
撮影 | 藤井昌美

山下拓也 Takuya Yamashita

アーティスト

1985年三重県生まれ、愛知県在住。

展示空間の壁や床にダイレクトに版画や彫刻の技法を用いて、消滅したサッカーチームや過去に開催されたオリンピックなどの役目を終えたマスコットたちをモチーフにした巨大な立体が登場するインスタレーションを制作。紙やベニヤなど薄く平たい素材を使って、キャラクターの表象的なイメージを強調しながら、迫力ある作品を展開している。また漫画家の温田庭子とのユニット「温田山」としても活動を行う。

近年の主な個展に、「マスコットたちとカニエ・ウェストとタコス男、他」(Token Art Center、東京、2021年)、「熊と多分インディアンと市長が警察官と背中、他」(VOU GALLERY、京都、2020年)、主なグループ展にMAT Exhibition vol.9「名古屋 × ペナン同時開催展：名古屋文化発信局(名古屋本部)」(港まちポットラックビル、愛知、2021年)、「2020年度第3期コレクション展」(愛知県美術館、2020年)、「When It Waxes and Wanes」(vbkö、オーストリア・ウィーン、2020年、温田山での参加)。

Web | takuya-yamashita.com

《TOKONA-X》《刃物屋さん》2021
撮影 | 藤井昌美

小林真依 Mai Kobayashi

アーティスト

1986年愛知県生まれ、同地在住。

誰もがどこかで見たか、体験したことがあるような日常をモチーフに絵画や立体作品を制作している。

2016年-2017年には、港まちにある旧・防潮壁に地元の小学生とアーティストが壁画を描く「防潮壁プロジェクト」の講師を勤め、港まちをテーマに壁画を制作した。

主な個展に「Paper stone」(ボタンギャラリー、愛知、2017年)、「MUSIC」(YEBISU ART LABO、愛知、2015年)、主なグループ展に「食と現代美術 vol.8 アートと食と街」(BankART Station・BankART KAIKO、神奈川、2021年)、「Light meal」(名古屋市市政資料館、愛知、2019年)、プロジェクトに「防潮壁壁画プロジェクト」(名古屋港、愛知、2016-2017年)、「デジタル似顔絵」(愛知県各地のイベントにて屋台出店、2021年-)などがある。

Youtube | <https://www.youtube.com/channel/UCgrj8LL-PUnbM82vEc4u9fw>Instagram | <https://www.instagram.com/maikobayashi4>

《富士の湯》2015 撮影 | 谷澤陽佑

福田良亮 Ryosuke Fukuda

アーティスト

1980年愛知県生まれ、同地在住。

油彩を中心とした絵画作品を制作し、生まれ育った名古屋市熱田区の風景や、魚、花などの縁を感じたものをモチーフに心象風景を描く。モチーフを深く捉え、色やかたちの断片を再構築し、抽象と具象を行き来するような絵画を立ち上げる。

近年の主な個展に「The scenery that I arrived」(NICHE GALLERY、東京、2021年)、「dismantlement」(Gallerie Valeur、愛知、2020年)、主なグループ展に「FACE 2021」(SOMPO美術館、東京、2021年)、「第13回大黒屋現代アート公募展」(板室温泉 大黒屋、栃木、2018年)、「シェル美術賞展 2017」(国立新美術館、東京、2017年)などがある。

Web | <https://fukudaryosuke.wixsite.com/periodcolor>

《常夜灯》2018

山口 諒 Ryo Yamaguchi

アーティスト

1990年長野県生まれ、愛知県在住。

映像に映し出される物事が生み出す「見えない何かの存在」や「存在はしていたが不明確なもの」を主題に、エフェクトの加工やフリッカー効果など映像のアナログ的な手法を多用してモチーフを解体し、映像のレイヤーや光と自身が持つ家系や経験など個人的な事柄を結びつけ、自身の抱く疑問や思いと向き合い表現を探求している。

近年の主な個展に「山の向こう側へ / BEYOND THE MOUNTAIN」(穂高交流学習センター「みらい」ギャラリー、長野、2020年)、主なグループ展に「中之条ビエンナーレ 2021」(中之条町、群馬、2021年)、「Perception Practice / チカク」(遊工房アートスペース、東京、2020年)、「共同体のジレンマ Community and Self」(旧門谷小学校、愛知、2018年)などがある。

Youtube | <https://www.youtube.com/channel/UCSfk4agXuNwINwYTAKFUJdW/featured>

《BEYOND THE MOUNTAIN》2020

SOUND BRIDGE プロフィール

井手健介 Kensuke Ide

1984年宮崎県生まれ、東京都在住。

音楽家。吉祥寺バウスシアターの館員として爆音映画祭等の運営に関わる傍ら、2012年より「井手健介と母船」のライブ活動を開始。さまざまなミュージシャンと演奏を共にする。

バウスシアター解体後、アルバムレコーディングを開始。2015年、1stアルバム『井手健介と母船』、2017年に12インチ・EP『おてもやん・イサーン』をリリース。2020年、石原洋サウンドプロデュース、中村宗一郎レコーディングエンジニアのタッグにより制作された、架空の人物をコンセプトとした2ndアルバム『Contact From Exne Kedy And The Poltergeists (エクスネ・ケディと騒がしい幽霊からのコンタクト)』をリリース、2021年には初のライブ・アルバム『Strolling Planet '74』を発表。

その他、楽曲提供、エッセイの執筆、MV映像監督を行うなど幅広く活動している。

アッセンブリッジ・ナゴヤでは、2020年に『井手健介とモームとNUCO』、『The Lonely Surfer』の2つのライブを開催した。

HP | <http://www.idekensuke.com>



GOFISH ゴーフィッシュ

テライショウタによる歌とギターのソロユニット。2000年頃より活動を開始し、2021年には通算6作目となるアルバム『光の速さで佇んで』をリリース。柴田聡子や韓国のシンガーソングライターイ・ランなどとの音楽や映像のコラボレーションも行っている。

そのほかテライショウタとして、音楽とスパイスの宴「カレー・ミーティング」や「カレーとノイズ、その他」を主催するなど、幅広い活動みせる。

アッセンブリッジ・ナゴヤでは、2017年に「みなと音めぐり」に出演、2018年にはソロライブ「UCOの裏庭ライブ」を、2019年はテライショウタ名義でNUCOにてカレーイベント「Curry Shop by Shota Terai」を開催。2020年には「港まちで再会する映像プロジェクト」に出演した。また同年にはMAT, Nagoyaの企画にて港まちに滞在し、アルバム『港まちの歌』を制作した。



写真 | 熊谷直子

浮 (ぶい) BUOY

米山ミサのソロプロジェクトとして、2018年頃よりギターの弾き語りや作詞作曲を行う。バンド「浮と港」や、言葉と音楽のユニット「ゆうれい」としても活動。2019年に1stアルバム『三度見る』をリリース。その後2021年に同作品をJETSETからアナログリリースした。また2020年リリースのクララズのカセットシングル「アメリカン」や、2021年リリースのGOFISHのアルバム『光の速さで佇んで』ではコーラスで参加している。そのほかSANDMIRU FOODSとして、吉祥寺にあるカフェバーHOME PLANETで製菓を担当するなど、音楽にとどまらない活動を行っている。

米山ミサウェブサイト「机上汽船」 | <https://sandmiru.wixsite.com/mysite>



アッセンブリッジ・ナゴヤ開催概要

実施エリア 名古屋港～築地口エリア一帯

実施期間 年間を通じてプロジェクト・プログラムを実施します

主催

アッセンブリッジ・ナゴヤ 実行委員会

構成団体 |

名古屋市、港まちづくり協議会、名古屋港管理組合、公益財団法人名古屋フィルハーモニー交響楽団、公益財団法人名古屋市文化振興事業団

助成

2021年度 文化庁 アーティスト・イン・レジデンス活動支援事業



協力：愛知県防水工事業協会、株式会社サンドロット

● 展覧会期間中の関連イベント

DOMANI plus @ 愛知「まなざしのありか」港まち会場

「DOMANI・明日展」は、文化庁新進芸術家海外研修制度<在研>の成果発表展として、1998年から毎年東京で開催されてきました。第24回を迎える今年度は、従来から実現の機会を探ってきた地域展開に挑み、全国5会場（水戸、京都、広島、愛知、石巻）で行うこととなりました。このうち、「DOMANI plus」は、2015年以降、地方会場やオンライン等で展開してきました「DOMANI・明日展 plus」シリーズを踏襲した中・小規模の企画展です。

愛知会場では「DOMANI plus @ 愛知」として、愛知芸術文化センター、港まちを会場に、愛知県を拠点にするアーティストを含む、4名のアーティストによる展示を行います。

これまで愛知県内では、愛知芸術文化センターや名古屋港エリアをはじめ、さまざまな地域で展覧会や芸術祭が数多く開催され、都市と芸術が密接な関係性を持ちながら、同時代の表現活動が盛んに行われてきました。

今回、愛知芸術文化センター会場では色彩や形、港まち会場では家族や記憶、時間などをキーワードに、それぞれのアーティストが見つめる「まなざしのありか」とその先に映し出される存在に出会う場を創出します。

2022年1月18日（火）-3月12日（土） 11:00-19:00（入場は閉館30分前まで）

会場 | 港まちポットラックビル 3F、旧・名古屋税関港寮

休場日 | 日曜・月曜・祝日

料金 | 無料

長島有里枝 [写真、1998年度（1年研修）アメリカ/カリフォルニア]

古橋まどか [彫刻、写真、インスタレーション、2017年度（1年研修）メキシコ/オアハカ、メキシコシティ]

主催 | 文化庁、国際芸術祭「あいち」組織委員会、港まちづくり協議会

企画 |

国際芸術祭「あいち」組織委員会（塩津青夏）、

Minatomachi Art Table, Nagoya [MAT, Nagoya]（青田真也、吉田有里）

協力 |

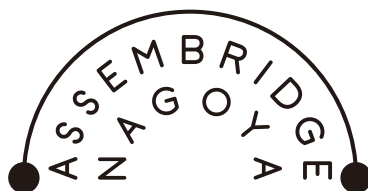
アッセンブリッジ・ナゴヤ実行委員会、KENJI TAKI GALLERY、MAHO KUBOTA GALLERY、

Yutaka Kikutake Gallery、Yumiko Chiba Associates

制作協力 | アート・ベンチャー・オフィス ショウ

WEBサイト | <https://domani-ten.com/2022/aichi.php>





※プレスリリースは、公式ウェブサイト内プレスページよりダウンロードいただけます。

<http://assemblebridge.nagoya/2021-/press.html>

※広報用画像のご希望の際は、お手数をお掛けいたしますが下記までお問合せください。

アッセンブリッジ・ナゴヤ (AssemblebridgeNAGOYA) 実行委員会事務局

〒455-0037 名古屋市港区名港 1-19-18 3F

TEL/FAX | 052-652-2511(平日 9:00-17:30)

E-mail | contact@assemblebridge.nagoya(事務局)

press@assemblebridge.nagoya(広報)

※新型コロナウイルス感染症の状況等により、実施内容等が変更となる場合があります。
最新情報はウェブサイト、SNSにてお知らせします。

Website <http://assemblebridge.nagoya/>

Facebook <https://www.facebook.com/assemblebridge.nagoya/>

Twitter <https://twitter.com/assemblebridge>

Instagram <https://www.instagram.com/assemblebridge.nagoya/>

Youtube <https://www.youtube.com/c/AssemblebridgeNAGOYA>

Website



Facebook



Twitter



Instagram



Youtube

